

非正規拡大の労働法制改悪は許さない

「人間らしく働ける社会の実現を」と15日、札幌市のかでる2・7で「ブラック企業・雇用問題を考えるシンポジウム」が開かれ、250人が参加しました。

北海学園大学の川村雅則准教授と札幌地区労連の木村俊二事務局長が報告。労働調査で来道していた大門実紀史、吉良よし子両参院議員もパネリストに加わりました。

川村氏は「『ブラック企業』という名前の付け方には、雇用の自己責任論を克服する意義がある。ブラック企業は社会全体の構造が生み出している」と話しました。木村氏は「社会保障と低賃金はつながっている。失業後の保障がほとんどない日本では、低賃金・長時間労働でも働かざるを得ない状況だ」と指摘しました。

大門氏は「党がブラック企業規制法案を提出したことで、厚労省が調査をはじめ、違法が見つかった」と報告、党ブラック企業・雇用問題対策チームの吉良氏は「超長時間労働をさせる手口として使われている『固定残業代制』などを改めさせるのは世論の力。労働規制の緩和など絶対許しません」と力強く訴えました。

会場からは若者を中心に「自分の職場はグレーだと思っ

ブラック企業・雇用問題シンポに250人

大門、吉良両参議

報告



報告する（左から）川村、木村、大門、吉良の各氏＝15日、札幌市かでる2・7

ていたが、ブラックだと気づかされた」などの発言が相次ぎました。

シンポジウムは国会議員団事務所が党道委員会と党道議団、民青同盟道委員会とともに開いたものです。

アンケートに異常な労働実態

党道委員会が行っている「働く人の雇用・生活実態調査」（雇用アンケート）には96人から回答が寄せられています。（19日現在）

「賃金が安い」が4割にのぼっているほか、「1日14時間勤務で、残業代はゼロ」（32歳・営業管理職）など異常な職場実態の告発も。雇用アンケートは道委員会のホームページでも実施中です。

道内の労働実態を調査 大門、吉良参議

大門実紀史、吉良よし子両参院議員は道内の雇用実態を調査するために15日午後、「ブラック企業シンポジウム」に先立ち、労働行政にかかわる職員と、労働条件に悩む3人の青年・学生にそれぞれヒアリングを行いました。

青年・学生のヒアリングでは、経営者からのパワハラ・セクハラ被害にあった介護職場の女性組合員が実態を告発。大門・吉良両議員は「ひどい」と声を上げ、怒りを共有しました。

ジェンダー平等の社会一緒に 紙議員があいさつ

国際女性デー全道集会



来賓あいさつする紙議員＝8日、札幌市かでる2・7

毎年3月8日は国際女性デー。今年は道内22カ所で集会が開かれました。

かでるホール（札幌市）で開かれた「2014国際女性デー全道集会」には630人が参加し、「平和な日本に」「働きやすい職場を」とアピールしました。

連帯のあいさつをした紙智子参院議員は、「安倍内閣は歴史と国民の願いに逆行している。憲法改悪を許さず、原発ゼロの日本、ジェンダー平等の社会を一緒につくりましょう」と呼びかけました。神戸女学院大学の石川康宏教授が「憲法どおりの日本のつくりかた」と題して講演。集会後は「STOP! 暴走政治」とパレードに繰り出しました。